

令和4年度第1回熊野市総合教育会議会議録

1. 日 時 令和4年11月7日（水） 午後2時00分から
2. 場 所 文化交流センター 交流ホール
3. 出席者 熊野市長 河上敢二
熊野市教育委員会
倉本教育長 根引委員、糸川委員、高見委員、北野委員
4. 事務局関係
教育委員会事務局
雑賀総務課長、伴学校教育課長、柳本社会教育課長
森倉学校教育課長補佐、浦坪学校教育課指導主事
中尾総務課長補佐、泉総務課庶務係長
市長公室
濱中市長公室長
総務課
吉井総務課長
5. 事 項
 - (1) 熊野市の子ども達に今育むべき力をどうつけていくか
 - (2) 生涯を通じた学びの充実のために
 - (3) その他

雑賀総務課長 定刻になりましたので、ただいまから令和4年度第1回熊野市総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会進行を務めさせていただきます熊野市教育委員会事務局総務課長の雑賀でございます。どうぞよろしくお願いたします。

雑賀総務課長 開会にあたりまして、河上市長からご挨拶をお願いします。

河上市長 皆さんこんにちは。まずは、お忙しいところ第1回目の総合教育会議にご出席をいただき、ありがとうございます。

また、日頃、当市の教育行政の推進につきまして、ご理解ご協力いただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

熊野市におきましては従来から教育委員会だけではなく、子育て支援全般に対して、その充実に向けて努めてきているところでございます。

特に平成28年度からは、「こどもは宝・未来への希望基金」を設けてまして、更に手厚い子育て支援を行っているところでございます。熊

野市としては、県内はもとより全国的にもトップクラスの支援策ではないかと思っているところでございます。

これも少子高齢化が続くなかで、子どもたちが将来の熊野市を担う、大切な宝物であるという認識のもとに、そういった教育や子育て支援策についてその充実に努めてきているところでございます。この考えのもと、引き続き総合教育会議においても、子どもたちに対する取り組みを手厚く考えていかないといけないと考えているところでございます。

本日の会議でございますけれども、1点目として、「熊野市の子ども達に今育むべき力をどうつけていくか」を議題として、令和4年度全国学力・学習状況調査結果から見えました課題から、学力向上に向けた具体的な取り組みについて、ご説明をさせていただきます。2点目は、「生涯を通じた学びの充実のために」を議題にして、ウィズコロナを前提として、事業の継続に向けた今後の対応や方向性について説明をさせていただきます。

この会議を通じまして、教育委員の皆様をはじめとする関係者の方々などと十分な意思の疎通を図るとともに、教育施策の方向性を共有し、より一層、保護者を含めた市民の皆様の声を反映した各種施策の推進を図ってまいりたいと考えております。

様々な分野におきまして、対応しなければならない課題が多くございますが、来年度の事業に向けてのご提言を含め、忌憚のないご意見をお伺いできれば幸いです。よろしく願い申し上げます。本日は出席をいただきましてありがとうございます。

雑賀総務課長 ありがとうございます。

会議を進めてまいります前にお手元に配布の資料の確認をさせていただきます。2種類でございます。

本日の事項書、それから横長の「令和4年度第1回熊野市総合教育会議」と記載されたものでございます。以上ですが、よろしいでしょうか。

それから、加えてお願いですが、マイクのスイッチは終始入れたままの状態で開催を進めてまいりたいと思います。ご協力をお願いいたします。

それでは、2番の事項に入らせていただきます。本日は、前回に引き続き、ただいま市長からもありました2つの事項を予定しております。

それでは、1点目の熊野市の子ども達に今育むべき力をどうつけていくかでございます。説明をお願いいたします。

伴学校教育課長 学校教育課課長の伴でございます。どうぞよろしくお願いいたし

ます。「熊野市の子どもたちに今育むべき力をどうつけていくか」について、先程市長からもお話のありました2点に絞って今からお話をさせていただきたいと思います。本日ここでご議論いただく内容により来年度の事業へも活かしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、別添資料の資料1ページからご覧ください。2ページの方へ進みます。

まず、令和4年度の全国学力学習状況調査の結果から見えた課題でございます。

昨年度もこの場でこのことをお伝えさせてもらっているんですが、今年度も小中ともにすべての教科が全国平均を下回っているような状況でございます。

特に、国語については、小中ともに課題が大きくみられる状況となっております。

次に、ここ数年の経年結果について見ていきます。

小学校では、やはり、経年で見ても国語に課題があることがわかります。

中学校においても、数学は小学校よりは改善されているものの、国語に課題がみられることがわかります。

国語の中でもどの点に課題があるのか、もう少し、細かいところを見ていきます。

全国学力学習状況調査では、それぞれ内容の細かい部分も結果が出ております。これをみていきますと小学校では、「書くこと」「読むこと」そして、問題形式では「記述式」に課題がみられます。一方、中学校では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域に課題がみられるとともに、小学校と同様に問題形式の「記述式」に課題がみられます。

ここから、本市の子どもたちには、特に「書くこと」に大きな課題がみられ、これを克服していくことが必要ではないかと考えます。これは経年的に、国語の「書くこと」「読むこと」の領域に課題が残っているような状況であります。

昨年度も課題としてこの場でもお話をさせていただいております。各学校に対して課題改善に向けた取り組みを具体的に指示したところでもあります。

しかしながら、今回の結果からは、課題改善が図られていないことから、取り組みが十分ではないと言わざるを得ない状況です。

次に小学校の質問紙調査結果についてご覧ください。白丸は全国平均を上回っているもの、黒丸は下回っているものです。

小学校では、いわゆる自尊感情や思いやり、勉強が好きという回答は全国平均を上回っています。特に自尊感情や思いやりについては、コロナ禍において全国的には下がっている傾向なのですが、熊野市では全国と比較すると高い状況にあるといえます。

一方で、ICT の活用などは小学校での全国平均を下回っています。特に ICT の活用については、学校間で差がみられる状況があります。

ただ、ICT 活用の差と学力調査結果との相関については、現段階では熊野市では、はっきりとはみられない状況でもあります。

中学校についても、自尊感情や思いやりについての回答は全国平均を上回っています。さらに、小学校では低かった ICT 機器の活用は全国平均を上回っています。

一方で、小学校では高かった、国語の勉強は好きかという質問結果は、中学校では全国平均を下回っています。

これらのことから、自尊感情、思いやりなどは、全国に比べて小中学校ともに高い状況で、これはコロナ禍のなかで、各学校で仲間づくり、心のケアなどに取り組んでいただいていることの証でもあるかなと思っております。その一方で、少数ではありますが、ケアの必要な子どもを見逃さずに支援をしていくことが重要であると思っております。

コロナ禍になりまして、教育委員会に寄せられる相談も増えてきております。ただ、その件数は増えているんですが、学校のなかでの相談が難しい状況になってから教育委員会に上がってくるということで、全体の数自体はそこまで増えてないんですが、中身が複雑になってきているという状況も見受けられます。

また、ICT を活用した学習状況については、中学校の割合は、全国平均に比べ上回っておりますが、小学校では、全国平均を下回っております。

これらを踏まえて、各学校における学力向上に向けた取組として、まず、特に課題がみられる、国語の「書くこと」「読むこと」の改善に向けて『小学校国語の全体的な底上げ』それから『学習指導要領で求められている力を確実につけていく』ことを進めていくことで整理していきたいと考えています。

具体的には、国語の学習指導要領で示されております内容、これをきちんとやっていただきたい。例えば、目的や意図に応じて書いたり、事実と感想、意見とを区別して書いたりすることを、あらためて授業の中で、しっかりと意識して、指導するよう改善を求めていきます。

そのために、指導主事が各小学校を訪問して、今回の全国学力・学習状況調査結果を踏まえて、各学校において課題はまちまちですので、それぞれに応じた取組について協議を進めております。

先ほど申し上げました、授業での学習指導要領の内容である指導事項を押さえた指導の徹底もお願いしております。

さらに、学習内容の定着、特に漢字読み書きの定着、取組を徹底していきたいと思っております。これは「基礎・基本の徹底」でもあります。これらを小学校を中心に進めていきたいと考えております。これらの内容については、各学校の学力向上担当者を集め、8月30日火曜日に開催しました第2回目の学力向上推進研修会において、県教育委員会紀州教育支援事務所指導主事から「国語科における授業改善のポイント」として、詳しく説明してもらいました。

さらに、市教委として「学力向上アクションプラン」を作成しました。学校教育課として課題を整理し、具体的なタイムスケジュールを作成しました。さらに、来年度の全国学力学習状況調査結果についての数値目標を設定しました。

特に、数値目標については、ここ数年の傾向と、該当学年の児童・生徒の「みえスタディ・チェック」の結果などから、設定しております。

本来であれば、全国平均を上回るころまで目標を立てたいところではありますが、現実的な数字としてご理解いただければと思います。

更に ICT の活用についてです。ICT をより一層活用し、学力課題、特に小学校国語の克服につなぐ必要があります。

そのために、「ロイロノート」の活用をとおした、情報活用能力の育成するとともに、国語の書く力・読む力も付けていければと思っております。

特に、ICT の活用については、学校間の差が見られることから、先進的に活用している事例を、あらためてすべての学校に周知し、効果的な活用を広げていきたいと思っております。

ここで、その活用事例として、井戸小学校4年生の国語の授業での、授業支援アプリ「ロイロノート」の活用について、動画を見ていただきます。

《動画放映》

この実践からは、1人ひとり全員が、「書く」作業を確実にやっていることなどが見て取れ、このような取り組みが国語の課題改善につながるものではないかと考えております。

さらに、先ほどの動画も含め、熊野市の教員には、「熊野市の ICT

教育」というホームページを立ち上げておりました、国語のほか、社会や算数、英語などのロイロノートの活用報告を掲載し、各学校と情報共有をしているところです。

先進的に活用している学校からは、活用した際の児童の反応としてここ（資料）にありますような、自分の意見を口頭で発表することが苦手な児童も、書いて提出する形をとることで、抵抗なく発表をすることができる。であるとか、友だちに伝えるために、理由を書き込んだり矢印などを用いて説明するための工夫を凝らしたりする様子が見られたり、友だちの意見や答えを共有することで、参考にしたり興味を持ったりしながら、学習を進められた。などの声が上がっています。

このことから、ロイロノートの活用は、熊野市の子どもたちの課題改善にも有効であると考えます。

今後も、様々な形で、熊野市の子どもたちに今育むべき力をしっかりとつけていきたいと思えます。

ただ、現在、コロナ禍を経て、というかまだコロナ禍の真ただ中とも言えますが、学力向上に向けて、様々な課題が顕在化しています。

最後に、そのことについて触れておきたいと思えます。

まず一つ目が、不登校児童・生徒の増加です。先程も言わせていただきましたが、この市内においては、不登校児童・生徒は著しい増加は見られない状況にあります。ただ、先日の新聞やテレビ等の報道でも皆さん目にされたかと思えますが、全国的な傾向としてこのことは話題になっております。

市内においても、自尊感情を高めたり、色んなかたちを取り組みいただいている中で、完全な不登校にはなっていない、登校はできているものの、短時間であったり、あるいは教室に入れず別室にするなど、学習補償が十分ではない児童・生徒は増加している傾向がみられます。

二つ目が、一人一台端末の家庭での活用についてです。市内すべての中学校において、一人一台端末を家庭に持ち帰られる環境整備が進んできました。

一方で、全体の10%弱の家庭でWi-Fi環境が整っていない状況も把握しています。今後は、それらの家庭への支援を実施していきたいと考えています。

さらに今後は、小学校での段階的な環境整備も実施していきたいと考えています。

三つ目が制限されていた（されている）教育活動についてです。

感染対策のために、これまで様々な教育活動を制限して実施してきました。

そのことで、子どもたちの十分な成長を保証し辛い状況などもありました。

具体的には、日常の授業の中での話し合い活動による学習の深まりなどが弱くなっていました。

一方で、感染対策を十分やっていたいたため、学校内での感染拡大は、これまでまったくと言っていいほど見られない状況もあります。

先月実施した「くまの未来議会」でも、市内の中学校3年生が、市議会議場に一堂に集まりました。しかしその後、中3の生徒が感染したという報告は1件もありませんでした。

つまり、感染対策をしっかりとやりつつも、子どもたちに十分な活動を保障していくことを見据えながら、補償できるような教育活動との両立を図っていきたいというふうに考えております。学校教育課からは以上です。

雑賀総務課長 それでは、ただいまご説明させていただきました一点目の項目につきまして、皆さんからご質問、ご意見等ございませんか。

北野委員 今、非常に素晴らしい授業風景を見させていただきましたけども、各学校間の学習要項の出来の差というのはあるんでしょうか。個々の学校がどうのこうのということではなく、傾向として学校間の格差がみられるのかどうかを教えていただければ。

伴学校教育課長 学校間での学力の差は見られますが、熊野市内の学校は児童・生徒数が少ないことからデータとして傾向が見えづらい状況であります。ですので、その年の子どもたちの状況によって学校間によって差が出ている時もあります。ただ、全体の傾向として言えることは、学校が落ち着いている所は、学力も高いという傾向があります。

雑賀総務課長 北野委員よろしいですか。

北野委員 はい。ありがとうございます。

もう1点、先程お聞きした中で、漢字の方に力を入れていかれるということで、具体的にどういうふうなことをされるのかお伺いします。

伴学校教育課長 特に漢字については、基本的にはドリル演習で繰り返しやっていくことが大事なんですけど、子どもたちの定着を考えたときに、子どもたちが、興味関心を持って取り組むのと、何の興味もなく、無理やりやらされるのでは、全く違ってくるのは、我々も学校で十分に感じているところであります。

数年前、市販のドリルで「うんこドリル」というのが流行ったこと

がありました。色んなところで賛否があったんですけど、子どもたちにとってみると、非常に興味、関心が持ちやすいドリルでありました。

そういう意味では、漢字にもきちんと興味、関心が持てるようなものを与えつつ、漢字学習の徹底を図っていきたいと思っています。

今から資料を配らせていただきますが、小学校の国語の教科書は、以前の教科書と大きく変わってきております。特に漢字の部分というのは、私共も若い時から進めている中で、色んな物語文や説明文の隙間教材という言い方をしていたんですけど、あまり漢字に対して重きが置かれていない教科書が多かったんですけど、最近はこの部分で、漢字に対する興味、関心が持てるような工夫もされてきております。5年生の教科書の1ページを印刷させていただいたんですけど、特に下の部分なんかは、テレビのクイズ番組でもよくでてくる、見たことのあるようなかたちです。こういったものを使って子どもたちに少しでも漢字に興味、関心を持たせられるような工夫を教科書自体が進んできているんですが、先生がなかなかこのあたりをスルーしてしまう傾向がありますので、こういったことできちんと興味、関心を持たせた上で、ドリル学習に取り組んでもらうような形で、各学校へ指導主事が回って話をしているところです。

北野委員

ありがとうございます。これから漢字に力を入れていただけるということで、このまま頑張っていたいただきたいと思います。

雑賀総務課長

ほかの委員さんはいかがでしょう。

高見委員

北野委員とのお話とも関連するんですけど、学校間の差ということで、単式で指導している学校と、複式でやっている学校とでは、授業の内容も一学年丸々使えるのと、どうしても複式のところは、その学年、もう1つの学年と1時間の内に分けてしなければいけないというところもあって、そこらへんもあって学力の差というのは出てくるのかなと思うんですがいかがでしょうか。

伴学校教育課長

実は、この件に関しましては市長からも指摘をいただいております。単発のデータとしては見えてこないんですが、特に複式の母数が少ないということもありまして。複数年にわたりまして見るとデータ数も多くなりますので、それで分析をしたらどうかという話もありまして、昨年度やらせてもらったんですけど、大きな差が無いといえば無いんですが、やはり複式の方が細かい部分をきちんと見いただいていることもあります。そして、個々人の学力の差が少ないという傾向も見られます。どうしても人数の多い単式の学級では、個人の学力差は大きくなってしましまして、平均点でいうとそれほど差は無いんですけど、そういった個人間の差というのは出ている

のかなと思います。

高見委員

ありがとうございます。もう1点よろしいですか。複式学級のことなんですけど、今見させてもらった ICT 活用授業の方も、単式の時々は授業ができるんですけど、複式の学年であったら、先生は端末を2台使うのかとか、気になったんですけど。

伴学校教育課長

複式における ICT の活用については、先程紹介させていただいたロイノートについては、主に授業支援アプリといいまして、授業を实际進める先生が使うアプリでして、これについては、複式だからという理由で活用されている傾向はありません。ただ、複式でよくやられているのは、eライブラリという、いわゆるドリルが子どもたち自分の力に応じてダウンロードしてやっていく教材があります。それを熊野市内全部入れているんですけども、直接指導の際は先生が直接指導をして、間接指導という「この間は自分でやっておいて」という時に、このeライブラリを活用してやっている学校もあります。

雑賀総務課長

高見委員よろしいでしょうか。

高見委員

はい。ありがとうございます。

糸川委員

先ほど小学生の動画を見させていただいて、今の小学生の授業の様子がわかって良かったです。先生の中に女性の方がいらっしゃいましたが、あの方はどういう方なんでしょうか。

伴学校教育課長

先ほど映っていたのは、特別支援教育支援員ではないかと思えます。今、確認はできませんが、ICT 機器を使う際には、子どもたちの様子を全体でも見ていただいて、声掛けをしていただいたりしているところがあります。

糸川委員

今の子どもたちはタブレットを活用した授業にも抵抗感が少なく、使いこなしている子どもも多いと思うんですけど、やっぱり子どもたちの中には得意、不得意があると思います。同じように、今まで対面の授業をおこなってきた先生方もまだまだタブレットを使いこなす授業に不慣れな方もいらっしゃると思うんですよね。

さっきのように、先生のほかに補助的な先生とかスタッフとか、そういう方がいらっしゃると思うんですけど、そういう先生方が自己申告で「私は不慣れなので、どなたか付いてください」というお話はあがってこないのかなと思うんですけどいかがでしょうか。

伴学校教育課長

おっしゃるとおり、先生方の中でも得意、不得意というのがあります。特に不得意な先生については、そういう声を出していただくところまでいっていない状況があります。ようするに使わずに、避けてしまっている方も沢山ではないんですけど、おられる状況があります。各学校では ICT 教育の担当を設定しておりますので、その担

当者をとおして、そういった方にもどんどん働きかけをしていただいて、今ご指摘のような補助も含めてお願いをしているところではあります。一方で、例えばアンケート等も ICT を使って、1人1台端末からアンケートをとれる形を作っております。その中では、教育委員会の ICT アドバイザーの方に声があって、ICT アドバイザーがそこへ赴いて、アンケートの取り方等を補助してもらうようなこともやっております。以上です。

雑賀総務課長 糸川委員よろしいでしょうか。

糸川委員 はい。

根引委員 今の質問と関連したものですけど、ICT を活用した時に、今の映像のクラスは人数が多かったので、子どもたちへの援助、サポートがなかなかできない。時間内では難しいなと思ったんですけど、例えば付箋への書き込みについても、時間が要る生徒もいると思うんですよ。ですので、IT のようなサポートしてくれる先生または、支援員等がおれば、もっと活用がしやすいんじゃないかと思います。子どもにとってね。子どもがわからないことを尋ねやすいような状況になるんじゃないかと思いました。もう1点、関連した中で、共有の学びができるような気がします。他の児童の様子を見ながらそれを共有していく、そういう学び合いに ICT が活用できているというふうに思いました。2点目は、スタディチェックより数値目標、小学校が来年度は5ポイント以内、中学校は2ポイントでしたよね。本年度は、9ポイント以上の差があったと思うんですけど、大変努力が必要だと思います。地道な努力しかないんですけど、そういう中で、私はやはり読書指導が大事かなと思っています。最近、漢字に触れる機会がなかなか少ない。なんとか、そういう指導をしながら、少しでも数値目標に達すればいいかなと思います。最後に3点目、学級の授業に入れられない生徒への対応が先ほどありましたよね。学校へは来られるんですけど、中々授業に入れられない子どもたち。その子どもたちも学校ではしっかりサポートしないとダメです。そのためには、どうしても人が必要なんです。今であれば、保健の先生の対応が、大変多くなっていると思うんですけど、他の先生方も対応していただいているんですけど、そこらへんももう少し考えていただきたいと思います。

教育長 今、読書指導のことについてお話いただきました。現在、小さな幼児・乳児については、「おはなしなあに」「おはなしわくわく」、そして図書館見学などで取り組んでおります。一方では、「集団貸し出し」これも小学校はある程度あるんですが中学校が「集団貸し出し」を要望してくる学校が少ないので、今後は「売りに行く」ということ、例えば司書が選書した本を貸出率の低い中学校に「売りに行く」という

った、こちらからそういう場をお願いしていくというようなことも考えております。

たしかに、先程の漢字の学習についても課長から話がありましたが、昔は一文字の漢字を10回書く、20回書くという、これはあまり意味が無いですね。文章の中で適切に使える、同じ読み方でも、意味の違う熟語や漢字があったりしますから、それが上手く使えるように、そういったところにつきましては、読書というのは大切であると思っております。

先ほどからICTの話も出ております。教員によっては、苦手意識、得意な教員いろいろございます。ただ、これからの学校教育の中では、そういうことを言ってもらえない状況になっておりますので、更に各学校におけるICT教育の充実のためにICTを含んだ研修を重ねていくということが大事であると思っております。喫緊の課題であると思っております。

子どもの方は、非常に飲み込みが早い。教員についても若い教員、そして、地域未来塾というのを大学生を講師としてやっているんですが、こちらでは大学生が非常に効果的に使ってくれている状況があります。タブレットを文房具のように使いこなすということがこれから大事だと言われておりますので、文房具の一つとして使えるようにそうした環境を作っていかなければならないと思っております。以上です。

糸川委員

この第2回熊野市学力向上研修会という会は、学校の先生方全員が参加する会なのかなと思います。こういうふうに、学校教育課の先生方が子どもたちの学力向上のために、色んな指導方法などを考えて、試みをしていただいておりますが、実際に子どもたちに一番接している先生方皆に、この思いが届いているのか。先生方も同じ熱量で子どもたちと向き合ってくれているのか、そういうところがいかななものかなと思えました。もう1点、子どもたちの課題として、子どもの書くこと、読むことの領域に課題がみられるということでしたけど、子どもたちの課題は、学力学習状況調査や日頃のテスト等で判断されますけど、それを教える側の先生に、書くことへの指導力、読むことへの指導力が足りているのか足りていないのか、そういう判断はされているのかなと思えました。指導する先生の差が、生徒の理解力の差に繋がるんじゃないかなと思ったんですが、その点はいかがででしょうか。

伴学校教育課長

第2回の学力向上研修会なんですが、コロナ禍に入る前は、夏季休業中に全ての先生方に呼び掛けて参加してもらってございました。とはいえ、事情があつたりと全員という訳ではなかったんですけど、ほ

ば全員の参加を得ていたところですが、コロナ禍になって今は、今年
は対面でやらせていただいたんですが、各学校の代表者で集まって
もらってやっている状況です。委員の意見も参考にしながら、今後ど
ういうふうに取り組んでいけるかということを考えていきます。そ
れから、書くことの指導力については、これまでの国語とやはり変わ
ってきております。そのあたりについては、こういった研修会をと
おして、先生方にきちんとお伝えをし、そのことをやりきっていただく
形をとりたいと思っております。

糸川委員

わかりました。

雑賀総務課長

よろしいでしょうか。このあたりで市長よろしく申し上げます。

河上市長

単純なところからいくと、タブレットの使い方について、小学校で
の使われ方が全国平均までいっていないということなんで、これは、
このあとと言う話にも関わって、必ずしもタブレットが100%学力アッ
プに繋がるかは別の話で、使い方の問題があるんで。ただ、是非上手
く活用していただきたい。で、上手くという時に、タブレットの活用
によって、学力を伸ばしたところってあるんですかね。これはすぐ
には分からないと思うんですけど、今、糸川委員がお話されたことと繋
がって、色々な意見が出て、それぞれの射た内容だと思うんです
が、教育委員会でこういうことをやっていますということの報告は
必要なんだけど、学力を伸ばす努力は垣間見られるんだけど、結果が
付いてこないというのは、まだ何か不足しているというのは事実
なんですよ。これは教育委員会が悪いとか、学校の先生が悪いとい
うんではなくて、工夫の仕方みたいなどころがあるんじゃないかな
という気がします。このタブレットの使い方でも、子どもたちに厳し
い表現になるかもしれないけど、35人いたら、成績は正規分布しま
すよね。平均が真ん中に来ると思うんですけど、全体を高い方に移せ
ばいいんですが、35人を1人の先生がやるときに多分、上位の子
どもたちは何をやらせてもすぐできてしまう。この子たちを中心にや
る必要はあまりなくて、この子たちはタブレットを使ってどんどん
先をやればいい。だけど、平均より下の子どもたちは、タブレットの
中身もレベルダウンして、ABCのAから使わせて理解を先にさせ
るといふ、私が言ってることが正しいかは別なんです。だけど、タ
ブレットを一律に使うよりも、タブレットの使い方によって伸びる
子は自分でどんどん伸びて行って、少し平均より下の子どもたちを
タブレットを使いながら、タブレットを使わなくてもいいかもしれ
ませんが、教え込んで底上げをしていくというような、私はこれが良
いかどうか分からないから、上手くいっているところの事例が分か
らないと、結果が分からないんですよ。色々な提言をしても、それ

が正しく機能するかは別なことで、そういう意味では、優良事例、先進事例を探してくればいいんじゃないかというのは、ある程度結果が見えてて、ある程度というの、熊野市の教育に合うかどうかは別の話なんで、少なくとも結果が出ているやり方というのは、参考にすべきんじゃないかなと思うんですけど。

タブレットの使い方が一律ダメなんじゃなくて、全員使う必要が無いのかもしれない。それくらい柔軟なやり方があるんじゃないかという気がするんですが。そうすると、少なくともこの正規分布の残念ながら平均より下の子どもたちが少しずつ上がりやすくなる。こっち（上位）の子たちは、自分でやって伸びてもらえばいいというような、そういうやり方もあるんじゃないかなと思います。私の考えなので、良いか悪いかは別にして、その他に色々なやり方があると思うんで、是非、先進・優良事例を調べていただくのがいいんじゃないかなという気がします。

雑賀総務課長
伴学校教育課長

伴課長いかがでしょう。

ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思います。特にこれまで、算数・数学に関しては、そういった先進事例が ICT を使った個別に対応できるものというのが、たくさん出ておまして、この県内でもたくさん出ております。先程市長が言われたように、個別最適化という言葉で授業の中ではやっているんですが、算数の習熟度に応じた問題をそれぞれに配ったりとか、そういうのが ICT では非常に上手くできる状況ですので、そういった工夫はできているんですが、いかんせん国語に関しては、あまり取り組み事例が無い状況でもあります。その中で、基本的には、アナログできちんとやるべきことはアナログでやってもらいたいんですが、それをデジタルの中でできないかどうかというのは模索していってもらいたいんです。先程、根引委員からご指摘いただきました、取り残されていく子どもたちの部分なんですけど、サポートが必要な子どもの把握は、ICT を使う方ができる状況は出てきています。ようするに、今まで机間巡視であれば、ノートにきちんと書けているか書けていないかを一人一人丁寧に見ていくのが非常に困難な状況があったんですが、画面上にずっと並ぶと、そういう漏れは少なくできるねという話はしているところです。その子たちにどういうふうに個別の対応をしていくのがいいのかというのを今後、先進事例も含めて考えていきたいなと思っています。

倉本教育長

市長がおっしゃったように、課題が明確になっているけど、またそれに対して取り組んでいるけど、向上というか、改善してこないというのはまさにそのとおりでございます。国語における書くこと・読む

この分野につきましては、経年的な課題でありました。そのことに取り組んではおるんだけど、今年度に至っては、その書くこと・読むこと以外にも課題が見えてきたと。そのことを具体的に解決するにはやはり、教育委員会の取組が各学校の取組にしっかり繋がっていかなければならない。子どもたちの学ぶ姿に伝わっていかなければならないんですが、そこが若干課題があると認識しております。タブレットを使うとそれが解決されるかということ、そうでもないと思います。

アナログ的な指導も大事だろうし、場面によってはタブレットを使った指導も大切だと思います。

ようは、タブレットの使い方であったり、そういう部分になってくるのかなと思います。次への課題は、具体的な指導の中で、読むこと・書くことをどう扱っていくか、漢字をどう扱っていくか、子どもの興味、関心をいかに高めていくかということだと思っています。それをタブレットも使いつつ、対面の穴埋め的なことも大事にしながら、ハイブリッドになるのかなというふうに私は思っております。

できる子はどんどん進めていくというのは、理想的だとは思いますが、その子の能力に応じて、その課題に取り組んでいくのは大事だと思いますが、ICTを使った場面では、ある程度そのことを意識はしているけど、どうしても一斉学習ですので、そこに徹することはできない。どうしていけばいいかというのは、これからの課題であると認識しております。

雑賀総務課長 はい。ありがとうございます。お時間の制約もごさいますが、この件に関しましていかがでございましょうか。

よろしいでしょうか。それでは、事項2番の生涯を通じた学びの充実のためにということで、社会教育課長の方から説明をさせていただきます。

柳本社会教育課長 社会教育課長の柳本でございます。よろしくお願いたします。

それでは、21 ページをご覧ください。

「生涯を通じた学びの充実のために」というテーマで、市民の皆さんの生涯学習についての考えを説明させていただきます。

人生 100 年時代と言われるようになった現在、豊かな生涯を送るには、さまざまなライフステージに応じた学びが大切であると考えます。

SDGs においても「質の高い教育をみんなに」とあるように、子どもも大人もいつでも学ぶことができ、誰もが平等に質の高い教育を受けられる環境を作ることとされています。

社会教育課では、人生 100 年の間、絶え間ない教育が受けられる

よう乳児から高齢者まで、各ステージでさまざまな教室を設け、生涯学習の充実を図っている所でございます。

表について説明いたしますと、一番左側の乳児から未就学児までのステージは健やかな成長を育むうえで非常に重要な期間でございます。講座としては「おはなしなあに」「幼児のお話し会」「おはなしわくわく」などがあります。

次に、小学生から中学生までですが、この期間は、さまざまな体験活動によって学ぶ楽しさや分かる楽しさを感じ取ってもらえる講座として「いっしょに花づくり教室」「チャレンジ科学教室」「子ども囲碁教室」「キッズ司書養成講座」「巡ろう熊野市の文化財」などがあります。

続きまして、高校生から高齢者までですが、「豊かで充実した人生を築く」ために役立つと思われる、「書道教室」「スマホよろず相談室」「家庭菜園教室」「フラワーデザイン教室」「市民大学」「学びの広場熊野」「文学鑑賞講座」など体験型と聴講型の教室を取り揃えております。

最後のステージは、高齢者でございます。紀和壽学園では、講演を聞いたり、みんなで歌を歌ったり、体を動かしたりするなど、仲間と楽しく交流することを中心としたメニューを組んでおります。

22 ページをご覧ください。

人は、学ぶことにより、豊かで、充実した人生を送ることができます。中でも「読み聞かせ」や「読書」は様々な効果があると言われております。本の内容を疑似体験したような感覚になることで、想像力が鍛えられたり、新たな発見や視野が広がったり、また、生活に役立つ情報を得ることもできます。

人生のどのライフステージでも読書から得られるものが多く、役立つものと考えられております。社会教育課では、生涯学習において、読み聞かせや読書が人生において欠かせないものと考え、これまでやってきたことを、さらに充実させるとともに新たなことも試みます。それでは4つの取組についてご説明します。

まず、取組1ですが、新たな利用者を増やすことを目的として、文化交流センターに来て図書館はあまり利用しないという人をターゲットに「コラボ展示」を行います。

内容につきましては、文化交流センターで開催される企画展や展示などイベントの際に、内容に則した図書を展示することで、イベントに来た人に興味を持っていただくものです。

もう一つの取り組みですが、児童生徒にも、もっと図書館を利用していただくよう、教科書に紹介された図書の「紹介コーナー」を常設

し、読みたくなったらいつでも借りられるようにいたします。

23 ページをご覧ください。

取組 1－2 ですが、こちらも「新たな利用者を増やす」という目的として、キャンドルライブラリーを開催します。閉館後、暗くなった図書館で楽しんでもらうことにより、今後の図書館の利用につながります。

具体的な内容としましては、子どもを対象とする場合は、なぞ解きを用いた本探しのゲームを行い、あまり行かないコーナーに行ったり、調べたりすることで新たな発見につながります。また、おはなし会も開催いたします。

大人を対象とする場合は、照明を暗くし、キャンドルの灯りの中、ゆったりとした気持ちで本を読んでいただくなど、昼間ではできないことを体験していただきます。また、映画鑑賞や朗読なども考えております。

24 ページをご覧ください。

取組 2 ですが、図書館に行く手段がないなどの理由で利用者が少ない地域に出向き、図書を貸出します。また、リサイクルブックを出張所に置き、住民が気に入った図書があれば、自由に持ち帰っていただきます。次に集団貸し出しの利用数の少ない学校に対して、司書が選定した図書の貸出を行います。また、市民等から提供された図書の中で、児童生徒用のものがあれば学校に提供いたします。

25 ページをご覧ください。

取組 3 についてですけれども、図書館ではボランティアによる読み聞かせをおこなっておりますけれども、子どもの成長には、乳幼児からの読み聞かせが大切ですので、ボランティアの役割は大きいと考えております。そこで、養成講座を開催し、長年読み聞かせをやってきたボランティアや経験の浅いボランティアなどに基礎をしっかりと学んでいただき、各ボランティアの能力に差が無いようにします。また、全員のスキルアップを図ります。

同時に、人員確保のため、養成講座において読み方、本の持ち方など学んでいただきます。また、一人でも多くの方にボランティアに興味を持っていただくよう、文化交流センターのクマノミチにおいて普段行っている「読み聞かせ」「修理」「書架整理」の活動を写真等で分かりやすく紹介いたします。そして、ボランティア体制の充実を図るとともに、要望があれば保育所や小中学校に出向き、読み聞かせを行います。

以上、「生涯を通じた学びの充実のために」の中でも重要と考える「読書」に焦点を当てて、4つの取組を説明させていただきました。

26 ページをご覧ください。

続きまして、冒頭にご説明いたしました各ライフステージ毎の講座の目標、講座名、内容、そして、これまでと今後の主な取組をご説明いたします。

まず、乳児から未就学児まででございます。

目標は、「健やかな成長を育む」とし、主に想像力と感情の豊かさや語彙力、集中力の向上を目指します。

講座は、おはなしなあに、幼児のおはなし会、おはなしわくわくがあります。内容は、ボランティアによる読み聞かせや、わらべうたをみんなで歌うなど、遊びの要素を取り入れた活動をとおして、温かい雰囲気の中で楽しい時間を過ごすものとなっています。これまでの取組としましては、参加人数が少なくなってきたため、「幼児のおはなし会」「おはなしわくわく」を第2土曜日の14時から午前10時30分に変更しました。今後も、参加人数を注視しながら臨機応変に対応をしていきたいと考えております。

27 ページをご覧ください。

小学校から中学校までのステージですけど、「学ぶ楽しさを教える」を目標とし、さまざまな体験活動を経験することで学ぶ楽しさを知り、豊かな人生を歩むための土台づくりを目指します。講座は、いっしょに花づくり教室をはじめ各教室をおこなっております。

内容は、専門知識を備えた各講師陣のもと、楽しく学び、経験することで、豊かな感性やコミュニケーション力を育むことができる内容の講座となっています。

主な取組は、巡ろう熊野市の文化財についてですけども、自分の生まれ育った地、住んでいる地の歴史や文化についてある程度話ができる子どもの育成を目的に、「巡ろう熊野市の文化財」事業を小学生対象に年2回実施いたします。

次に、図書館で行っている生涯学習のうち、キッズ司書育成講座についてですけども、内容としましては、カウンター業務をはじめ、図書館福袋に入れる本を選んだり、読み聞かせをしたりするなど、本と触れ合いながら、図書館業務を楽しく学ぶことができます。教室終了後にはキッズ司書に認定されます。

これまでと今後の主な取組として、キッズ司書が選んだおすすめの本を幼稚園や小学校に配布する図書館だよりに掲載いたしました。今後は、本についてもっと親しみを持ってもらうために、好きな本を読んでもらって感想を話す場を作ることといたします。また、中学生になってもキッズ司書として各行事に協力してもらうことで、本とのつながりを絶やさないような取組を考えていきます。

28 ページをご覧ください。

高校生から高齢者のステージですが、「豊かで充実した人生を築く」を目標とし、教養力の向上や仲間づくり、心の豊かさを育むことを目指します。

講座は、書道教室をはじめとする各教室があります。内容としましては、専門的知識を備えた講師と受講生からなる教室型の学習講座でございます。

これまでの主な取組として、子ども囲碁教室については、昨年度までは初回までに申し込みが必要となっていたものを、今年度から学びたくなったらいつでも参加できることといたしました。

スマホよろず相談室については、講師1人が、受講生全員に同時に教えるのではなく、わからないところを講師に教えてもらうといった1対1による相談形式で実施しています。

フラワーデザイン教室は、今年度は、1回目の入門編といたしまして、参加費の価格を抑えることで新規の参加者も獲得できました。

出前講座につきましては、今まで参加したくても交通手段が確保できない、興味もなく参加したことがない人たちにも参加してもらうために、山間部や海岸部において、開催地の区の役員の協力を得ながら地元の歴史等を題材とした講座を行います。

また、会場までの交通手段等が確保できない受講者に対しては、送迎をおこないます。

29 ページをご覧ください。

図書館で開催している高校生から高齢者の講座として文学鑑賞講座と製本教室をおこなっております。

これまでの主な取組としましては、文学鑑賞講座については、講師が高齢なことから、毎月の実施が困難な傾向であるため、隔月に開催し、回数を減らしました。

昨年度は年賀状製本教室を開催いたしましたが、新規の参加者を見込むことを目的として、今年度は製本教室に変更いたしました。

最後になりますが、高齢者のステージは、「元気な高齢者を増やす」を目的として、人と交流することで、生きがいづくりや健康寿命の延伸を目指します。

講座は紀和寿学園で、紀和町の高齢者を対象として、年間を通し、健康講話やレクリエーション、運動会など様々な内容となっております。

これからの主な取組としては、紀和町の高齢者を対象として、みんなで集まって楽しく学ぶことで健康長寿を実現することとでございます。また、登録者数については、年度を追うごとに減少してきており

ますけども、今後も引き続き、一人一人が満足のいく内容となるものを考えていきます。

また、会場までの交通手段等が確保できない受講者の皆さんには、送迎をおこなうなど参加しやすい環境を整えていきます。

以上で、「生涯を通じた学びの充実のために」に関する4つの取組及び現在行っている生涯学習講座の取組等を説明させていただきました。ありがとうございました。

雑賀総務課長
河上市長

それでは、ご質問、ご意見等ございませんか。

22 ページの3つ目の丸の後ろに、興味を持った図書という表現があって、24 ページの2つ目の丸の右側の方に、司書が選定した図書とあるんですが、言いたいのは、子どもたちがどういう本を読みたいのか、きちんと把握ができているのか。少なくとも司書の皆さんはこの道の専門家なんで、ある程度のことは把握されていると思います。しかし、少なくとも、興味を持った図書があればというのは、興味を持った図書があれば、きっと読んでいるので、そもそも潜在的に子どもたちがどういう本を読みたいのかというのがわかってないんじゃないか、残念ながら我々が。

全然話が違うんですけど、新しい商品や特産品を作る時も、それが本当に売れるかどうかなんてのは、アンケート調査ではわからないわけなんですね。アンケート調査の裏にある本当に根源的に消費者が求める、求めたいと分かっているものじゃなくて、分かってなくてこれがあればいいなというのがあるはずなんです。

本なんかでも、推薦図書とかいっぱい出てくるんだけど、本当に子どもたちが読みたい本なのか、作った側が読ませたいから推薦してくる本なのか、私はさっきから若干この辺のところは分かっていなかったら、いくら子どもたちに提示しても、本を読む子は限られていて、読まない子に読ませないとダメなんで、そういう部分を少し、少なくともアンケート調査を否定するつもりではないんで、アンケート調査くらいしなきゃ分からないんじゃないかなという気がするんですけど。まあこれは良いか悪いかわかりません。ただの意見なんで、今後検討していただけたらと思います。

それともう1つは、私が言うと身の上になるんで非常に言いにくいんですけど、27 ページの上の社会教育総務でやっている色々な取組、小学生を対象とした。これは私は本当に、囲碁教室は、結果がすごく出てるんで、さっき言った、伸びる子はどんどん伸ばしてあげればいい、そのことに非常に役に立っているもんだと思ってまして、これたまたま囲碁は熱中してしまう人はどんどん熱中してしまう。おそらく、チャレンジ科学教室であるとか、Iot なんかでも、もっと

勉強したいけど、ここで終わりみたいなことが無いのかどうか。もしあるのであれば勿体無いんで、どんどんステップアップしていけるように、そういった面で教育委員会が考えていただきたいなと思います。

雑賀総務課長 委員の皆さんからいかがでしょうか。

根引委員 先程の読書のことなんですけど、読み聞かせというのがあったと思うんですけど。ボランティアの方が学校で読み聞かせというのはなかなか少しハードルがあるみたいなんです。学校としては、小学校の1年生あたりであれば他所から来てくれた人を大変喜ぶんです。知らない人に触れるというか、その時点でまず喜ぶんです。それからやさしく読んでいただくと、もっと喜ぶんです。それによって子どもたちが本に湧きあがった興味とか関心を持つし理解します。外から人を呼んでもらうと、少しまた違った興味も持ちますので、要望があればではなしに、できるだけそういう組織をきちんとしていただいて、学校へ行っていただいたらいいなと思います。

柳本社会教育課長 たしかに、読み聞かせというのは非常に重要だと私たちも考えておまして、ボランティアの方々のスキルアップをしたうえで、学校にも積極的に出向いて読み聞かせをしていきたいなと思っています。これまでも、学校以外にも例えば子育て支援センターひよっこに年1回ですけど、出向いて読み聞かせをしております。また、健康長寿課がやっておりますブックスタートというのもあるんですけど、そちらにも読み聞かせをしておりますし、そこで読書相談とかもおこなっております。若いお父さん、お母さんに相談対応をおこなうことで、どのような本を読み聞かせしたらいいのかということもアドバイスしながら、そして図書館でおこなっているお話なあにとか、お話会にも参加に繋げております。

雑賀総務課長 学校教育課長からも少し考えをお伺いしたいと思います。

伴学校教育課長 市長にご指摘いただきました興味を持った図書の件で、ここに小学5年生の教科書を持って来ているんですけども、今、市長言っていたとおりで、私たちが子どもの頃と比べても、本が溢れかえっている情報過多の時代です。その中で、子どもたちが自分の好きな本をどのように見つけていくかということが、教科書でも取り上げられています。

具体的な取組でいうと、ここに書いてある作家で広げる私たちの読書ということで、作家に着目をして、その作家がどのような作品を書いているのかということで、例えば、教科書に出ている壺井栄であるとか、そういった作家がどういう作品を書いているのかというのがこのように紹介されておりおまして、それぞれ拾い読みを薦めて

います。一冊の本をじっくり読むというよりも、色んな本をいっぱい触れていって、その中で自分の興味、関心がどこにあるのかというのを見つけていくような方向に進んできております。併せて、教科書の一番最後のところに本のカタログかと思うくらいたくさん本が紹介をされる時代になってきています。これも、実は図書館の方をお願いをして、教科書会社から一覧表になって出ておりますので、その本を全て揃えていただきました。その関係が、先程言っていた学校教育との繋がりなんです。言っていたとおりで、子どもたちに自分たちが興味のある本を探させるというのが、すごく大事になってきているというふうに思っているところです。

教育長から補足含めてよろしくお願いします。

雑賀総務課長
倉本教育長

先程、市長から言っていました子どもの読書について、興味、関心のある部分については、司書が選書をして学校に提供して読んでもらうというのにも関係あるんですが、例えばキッズ司書育成講座に来るお子さん、それから中学校の職場体験で図書館へ来るお子さん、こういった子どもたちは非常に図書に興味がありますので、放っておいてもどんどん本を読んでいます。生涯に渡って読書に親しむ子どもであり、そうして成長していくと思うんですが、特に中学校なんかは部活動があったり、塾があったり、色んな学習があったりして、読むきっかけや機会が無いということで、そういった子どもに対しては、こちらから先程申したように、司書が選書したものを持って行ってですね、触れていただく。学校教育課長が先程、教科書で紹介されている本こういったものをどんどん紹介していく仕掛けが必要なのかなというふうに思います。もう1点は、読み聞かせについてなんですが、私、御浜町と熊野市で校長をした経験がございます。その中でボランティアの方に来ていただいたことがあります。その様子も朝から見せていただいたこともあります。読み手のスキルによって子どもが引き込まれます。そうした部分では、読み聞かせボランティアのスキルアップ、また、新たなボランティアを募集する際には、絶対に研修が必須だと思っております。そこらへんを今後大事にしていきたいと思っております。以上でございます。

糸川委員

生涯を通じた学びの充実のためにという項目に当てはまるかわからないんですけども、先程、伴課長が色んな文章に触れること、根引委員が誰かが学校に来てくれると生徒は喜ぶというところで、私は新宮高校の卒業生で、先日、同窓会総会講演会に行ってきたんですが、その演題が「繋がり生態学」ということで、生物多様性保全のために私たちができることというとても難しい演題だったんですが、そのお話の内容がは、幼虫を食べるクモとトカゲのお話で、小さ

な島では、その幼虫を食べるクモが多いとトカゲが存在しない。でもしかし、トカゲが存在する少し大きな島ではクモが存在しない。話の内容はそこからの始まりだったんですね。私は生物学の話ってどんなに難しい話と思ったら、すごく簡単というか、興味深い面白い話だったんです。私も含めて子どもたちが興味を持つというのは、すごく簡単な取っ掛かりだと思うんです。新宮高校では毎年、色んな分野で活躍されている卒業生の方を呼んで講演をしてもらっています。でも遠くの知らない先生の話聞くより、その学校の卒業生の方に来てもらって、子どもの頃にこういう授業に興味があったとか、今この仕事に就いたきっかけはこうだったよ。とか、子どもたちの学習意欲や興味に繋がるんじゃないかなと思いました。先程のキャンドルライブラリーの子どものところで、ゲームの中で日頃興味の無いところに、調べたりして興味を持ってもらうというのも良い取り組みだと思いました。

話がまとまってないかもしれないんですけどすみません。

雑賀総務課長
河上市長

市長よろしいですか。

私がそういうところで喋るのは、政治的な色が濃くなってしまいうからどうかと思いますが、経験を喋れと言われれば喋れないことはありませんが、私は自分のことしか言えなくて、先生方のように全体を考えて物を言うことができないので、適格者かどうかはわかりません。ですが、30分くらい喋れと言われればいつでも喋ります。

雑賀総務課長
高見委員

他の委員さんどうでしょう。

図書のことなんですけど、学校にある図書室の本というのは、その学校毎で購入されているんですね。前に図書購入費のようなのを学校で見たことがあって。それなら、学校で子どもたちが読みたい本、欲しい本というのを募って、それを市の方で購入していただいて、図書館に置くというようにしていただいて、その本を図書館から貸し出すというふうにするのはどうかなとふと思ったんですけど。

雑賀総務課長
高見委員

可能だと思います。

そうすると、貸し出しの件数も増えるのかなと。子どもたちもこんな本が欲しいっていうのがわかるのかなと思いました。

倉本教育長

おっしゃるとおりでございます。学校では、各学校の規模によって図書標準というのがありまして、この規模の学校には何冊程度の蔵書が必要であるというような。熊野市の学校はある程度の標準は満たしております。ただ、古い本をいつまでも残しておいて満たしているという状況と、新しい物が入ってあまり読まなくなった物を廃棄したり、処分したりすることによって満たしていないと、一概にそう言い切れないんですけど、そういった中でご提案いただきました、図

書館ではありとあらゆる本を購入しております。ただ、学校からリクエストが少ないんです。だから、もっともっこちから、先程売りに行くという言葉を使ってしまったんですが、集団貸し出しとかです。ねそういったものを積極的に活用していただく。学校には司書の先生がおりませんので、読書の興味を持った教員なんかは選書してくれてると思いますが、それができないところは司書が選書して提供していきたい。そういったところをです。ね今後、大事にしていきたいと思います。ですから、学校からリクエストがあれば大抵の本は図書館に揃っております。

高見委員

はい。ありがとうございます。

雑賀総務課長

よろしいでしょうか。ほかございませんか。

河上市長

さっきの囲碁教室で成果を上げているというのは、ご存じの方とそうでない方がいると思うんですけど、ちょっと説明してもらった方がいいんじゃない。成功事例の1つなんで。

囲碁教室を卒業した子どもさんで、残念ながら今は奈良県に住んでいるけども、女子のプロ棋士が輩出されておりますし、高校生で全国ナンバーワンになった子も熊野市から出ているんですけど、お二人ともこの囲碁教室のOBなんですね。元々長く囲碁教室は開かれていたんですけど、学校での囲碁教室も開催したりして、教育委員会が後押しをしてプロ棋士が呼んでくれるようになって益々弾みが付いたというのは、後者の高校生の方は多分そうですね。だからやっぱり、私がさっき正規分布の話をしましたけど、よくできる子はその分野を伸ばしてあげること教育としては大切なことで、この芽を摘むのは良くない。そういう機会があればどんどん作るべきだと、再度強く言いたくて。結局、囲碁教室が上手くいってるのは、プロ棋士が来てもらえるようになったことが弾みになっているはずなんです。でんじろう先生のように出てきた瞬間にわっとなって関心を持つと思います。結果を残すためには、一工夫、二工夫いると思うんです。これもさっき言った先進事例を見つけてきて、出来る、出来ないじゃなくて、上手くいっている事例が多分参考になるんで、囲碁は逆に熊野市が先進事例だからいいんですけど、それ以外の分野も先進事例になるように是非努力を積み重ねてもらいたい。

教育は全体としてレベルアップしてもらいたいし、才能のある子は更にステップアップをさせるべきだと思ってるんで、教育の方では、才能のある子の伸ばし方っていうのは、個別的になってくるんで難しいんで、そういうのはこういうところで支援したらどうかなとちょっと思ってますけど。

雑賀総務課長

ありがとうございました。まもなく会議を始めて約90分経とうと

しております。他に委員の皆様からこの機会にございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは本日委員の皆様、市長から様々なご意見頂戴いたしました。これからの事業に反映させてなんとか結果を出せるようにしていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それではこれもちまして、令和4年度第1回熊野市総合教育会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。